

令和元年度の教育に関する
事務の点検及び評価報告書

令和 2 年 12 月

糸魚川市教育委員会

目 次

Ⅰ	教育に関する事務の点検及び評価の実施概要		
	1	点検と評価の趣旨	… 1
	2	点検及び評価の方法	… 1
	3	学識経験者の知見の活用	… 2
Ⅱ	教育委員会の運営及び活動状況		
	1	教育委員会の構成	… 3
	2	教育委員会会議開催状況	… 3
	3	総合教育会議	… 3
	4	教育委員会の主な活動状況	… 3
Ⅲ	施策の点検・評価		
	第1	0歳から18歳までの一貫した子育てと教育の推進	
		1	妊娠出産支援と親子の健康 … 5
		2	子育て支援の充実 … 11
		3	就学前教育の充実 … 16
		4	質の高い学校教育の推進 … 19
		5	学校等教育環境の整備 … 27
	第2	生涯学習の充実	
		1	社会教育の充実 … 32
		2	スポーツ環境の充実 … 40
	第3	文化の振興	
		1	芸術文化の振興 … 44
		2	歴史・文化の継承と活用 … 49

I 教育に関する事務の点検及び評価の実施概要

1 点検と評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

糸魚川市教育委員会では、教育に関する事務の点検及び評価を行い、学識経験者の意見を付して報告することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、教育行政に対する市民の信頼の向上を図ります。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1)点検及び評価の対象

点検及び評価は、糸魚川市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「第2次糸魚川市総合計画 基本計画」に掲げた施策を中心に行いました。

(2)点検及び評価の方法

評価の実施方法については、「第2次糸魚川市総合計画 基本計画」の中

で掲げる指標の達成状況や、対象年度の取組内容などを踏まえながら、各事業を3段階で評価し、評価理由と今後の課題解決に向けた取組について示し、点検及び評価を行いました。

評価	評価基準
順調	目標のとおり達成した、または、計画通り進んでいる。
おおむね順調	概ね目標を達成した、または、目標達成に向け進んでいる。
遅れている	目標を下回った、または、計画に遅れが生じている。

3 学識経験者の知見の活用

法の規定に基づく、教育に関し学識経験を有する方からの知見の活用として、協議会を開催して、施策の取組に関しての総合的な評価としてご意見をいただき、今後の取組に活用しています。

教育委員会協議会の開催

日 時：令和2年9月25日 午前9時30分～午後5時30分

場 所：糸魚川市役所 201.202 会議室

学識経験者：高橋 守 氏

教 育 長：井川 賢一

教 育 委 員：永野 雅美 轟本 修一

谷口 一之 塚田 京子

事 務 局：教育次長、こども課長、こども教育課長、生涯学習課長、
文化振興課長

II 教育委員会の運営及び活動状況

教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体的な事務を執行します。定例会や臨時会のほか、協議会を開催しています。

1 教育委員会の構成

令和2年3月31日現在

職名	氏名	任期
教育長	井川 賢一	平成31年1月1日～令和3年12月31日
教育委員 (教育長職務代理者)	永野 雅美	平成29年5月20日～令和3年5月19日
教育委員	靄本 修一	平成28年5月20日～令和2年5月19日
教育委員	谷口 一之	平成30年5月20日～令和4年5月19日
教育委員	塚田 京子	令和元年5月20日～令和5年5月19日

2 教育委員会会議開催状況

定例会を12回、臨時会を5回開催し、議案80件、協議2件、報告36件について審議等を行いました。議案80件の内訳は、人事案件26件、予算に関する意見の申出5件、条例・規則等の改正35件、その他14件となっています。

また、協議会を開催し、平成30年度の教育に関する事務の点検及び評価を行いました。

3 総合教育会議

市長と教育委員会が協議あるいは調整を行う場として「総合教育会議」が開催されました。下記議題等について協議し、意見交換を行いました。

開催年月日	会場	議題等
令和2年2月19日	市役所会議室	第1回 ・各種調査結果を踏まえた今後の対応について

4 教育委員会の主な活動状況

(1)教育関係会議への出席

- ・全県教育長会議（新潟市：4月15日）

- ・新潟県都市教育長協議会春季定期総会（見附市：5月17日）
- ・全国都市教育長協議会定期総会（富山県富山市：5月23日）
- ・新潟県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会（村上市：7月19日）
- ・新潟県都市教育長協議会秋季定期総会（燕市：1月16日）
- ・上越地方三市教育委員会連絡会総会（上越市：2月12日）

(2)学校等訪問

- ・4月23日 磯部小学校（学力向上研修会）
- ・5月20日 青海中学校、青海小学校、大野小学校、根知小学校
- ・5月29日 糸魚川中学校、糸魚川小学校、糸魚川東小学校、田沢小学校
- ・6月11日 西海小学校、ひすいの里総合学校
- ・6月24日 糸魚川東小学校（学力向上研修会）
- ・10月11日 糸魚川中学校（世界ジオパーク認定10周年お祝い給食）
- ・10月18日 中能生小学校（世界ジオパーク認定10周年お祝い給食）
- ・11月19日 田沢小学校（学力向上研修会）
- ・11月25日 木浦小学校、能生中学校、糸魚川東中学校
- ・11月26日 能生小学校、南能生小学校、中能生小学校、磯部小学校
- ・11月29日 下早川小学校、大和川小学校

(3)式典等への出席

- ・教育委員会年度始めの式（4月1日）
 - ・転入、新採用教職員辞令交付式（4月1日）
 - ・市立学校入学式（4月8日、4月9日）
 - ・成人式（5月3日）
 - ・教育懇談会・キャリア教育フォーラム（7月28日）
 - ・糸魚川東小学校創立40周年記念式典（11月16日）
 - ・ジオパーク学習交流会（11月21日）
 - ・教育懇談会（2月7日）
 - ・教職員退職感謝状伝達式（3月30日）
- ※市立学校卒業式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来賓出席なし

(4)先進地等の視察

- ・新潟食料農業大学、新発田駅前複合施設イクネスしばた、新潟県埋蔵文化財センター
【胎内市・新発田市・新潟市】（10月16日）

Ⅲ 施策の点検・評価

第1 0歳から18歳までの一貫した子育てと教育の推進

1 妊娠出産支援と親子の健康

- (1) 出産・育児満足の実環境づくり
- (2) 子どもと保護者の健康の増進

【基本方針】

出産、育児の満足度の高いまちを目指すとともに、健康づくりの土台を幼少期までに定着させ、遊びの推進、生活リズムの改善など健康づくりを行います。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
子どもとふれあう努力をしている割合 (小学校低学年の親)	58.4%	85%	85%
3食食べている割合 (4～6歳)	95.7%	100%	100%

2 施策の方向

(1) 出産・育児満足の実環境づくり

- 妊産婦相談や子育て相談の充実を図るため、育児教室や訪問、相談会を通じて、きめ細やかな相談体制を作ります。
- 乳幼児健康診査で疾病の早期発見や健康の保持増進に努めます。また、児童虐待の予防の視点を持ち、保護者の育児不安の軽減や適切な育児情報の提供などの支援を行います。
- 発達段階に即した愛着形成(※1)を具体的に啓発し、気軽に相談できる体制づくりに努めます。また温かいところによるしつけを地域ぐるみで進めます。
- 温かいところによるしつけを地域ぐるみで進めます。

※1 愛着形成：幼児期までの子どもと養育者との間で、情緒的な結びつき(信頼関係、愛情など)が培われること。

(2) 子どもと保護者の健康の増進

- 早寝早起きおいしい朝ごはん運動を推進し、0歳から9歳までに生活リズムの土台作りを行います。

- 基礎的な調理体験、食べる体験を通じて「食」への関心が持てる子どもを育成します。
- 子どもだけでなく保護者も含め生活リズムや食生活の改善ができるよう働きかけます。
- 9歳までの外遊びや集団遊び等の体験活動が子どもの心身の健康に欠かせないことから、ゲーム機、スマートフォン等の電子メディアに偏らない子育てを推進し、健康づくり、コミュニケーション能力、運動能力、自己コントロール能力等を育みます。

3 事業内容（主要事業）

(1) 妊娠アシスト事業

妊娠届出時の面接相談や、各種マタニティスクールを実施し、出産や育児に関する知識や技術を身につけ、安定したマタニティライフを送ることができるように取組を行っています。

更に、子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠から出産後までの切れ目のない支援の仕組みづくりを進めています。

また、不妊症治療・不育症治療に伴う治療費の一部助成を行い、経済的負担の軽減に努めます。

【妊娠アシスト事業の利用状況】

区分	平成 30 年度	令和元年度
マタニティスクール参加者数	26 人	16 人
パパマママタニティスクール参加者数	55 人	72 人
不妊症治療費助成件数（うち妊娠成立件数）	38 件(14 件)	35 件(12 件)

(2) 妊産婦医療費助成事業

母子手帳を受け取った日から出産月の翌月末までの医療費を助成し、妊産婦の経済的負担を軽減し、保健の向上と福祉の増進に寄与することで、産みやすい環境を整えることを目的としています。

【妊産婦医療費助成事業利用状況】

区分	平成 30 年度	令和元年度
医療費助成申請者数	延 145 人	延 132 人

(3) 乳幼児すこやか事業

乳幼児健診等を通じ子どもの心身の健康状態の確認及び生活改善を図り、子どものすこやかな成長と、保護者が安定した育児を行えるよう支援しています。

発達障がいの可能性のある子どもを早期に発見し、適切な支援につなげられるよう、5歳児発達相談会を実施しています。また、発達障がいに対する理解を広めるために、和歌山大学 教育学部教授 米澤 好史氏を講師に「発達障害と愛着障害の理解とその支援」と題し、市民公開講座を開催しました。

歯科健診におけるむし歯の早期発見、幼児を対象としたフッ化物塗布及び市内幼児・小中学生を対象としたフッ化物洗口の実施等により、むし歯予防に努めます。

【乳幼児すこやか事業の状況】

区分	平成 30 年度	令和元年度
3歳児健診受診率 ※1	98.8%	103.2%
5歳児はったつ相談会利用者割合	14.1%	17.6%
発達障がいという言葉に「知っていて意味も理解している」親の割合（小学4～6年生）	平成 26 年度 57.1%	67.6%
中学生一人平均むし歯本数	0.14 本	0.56 本

※1 前年度未受診者を含む

(4) 親子の絆応援事業

0歳からの愛着形成推進のため、2か月児訪問、おっぱい相談、すくすく赤ちゃん広場を開催し、具体的な育児方法の助言等を行っています。

小中学生を対象とした赤ちゃんふれあいスクールでは、子どもたちと赤ちゃんとのふれあい体験から、愛着形成や生命の大切さを学習する機会を提供しています。

【母乳育児率及び愛着形成事業参加者数】

区分	平成 30 年度	令和元年度
母乳育児率（4か月未満児）	53.7%	46.2%
すくすく赤ちゃん広場参加者数	延 241 人	延 195 人
赤ちゃんふれあいスクール参加者数	687 人	596 人

(5) めだか園運営事業

発達支援センターめだか園では、集団生活への適応が困難な幼児に対し少人数編成による療育教室を開催し、就園・就学へのスムーズな移行に向けた支援を行うとともに、保護者への支援として臨床心理士、言語聴覚士等による発達相談を実施しています。

【めだか園運営事業の状況】

区分	平成 30 年度	令和元年度
発達支援センターめだか園登録者数	71 人	70 人
発達支援センターめだか園利用者延人数	1,593 人	1,297 人

(6) 早寝早起きおいしい朝ごはん事業

妊娠期から就園までは、マタニティスクールや乳幼児健診において、就園児や小学生は健康教室の開催や生活リズム改善の家庭学習を通じて、妊娠期からの一貫した取組を推進しています。特に9歳までの規則正しい生活リズム定着に重点をおいています。

また、関係職員研修会として、学校法人さつき幼稚園理事長 井上高光氏を招き、「じゃれつき遊び研修会～実技・講義～」を開催しました。

【生活リズムの現状】

区分	平成 30 年度	令和元年度
① 21時30分までに布団に入る割合 (小学1～3年生)	65.7%	68.3%
② 朝ごはん3品以上の割合 (小学1～3年生)	60.4%	68.1%
③ 電子メディア総使用時間2時間以内の割合 (小学4～6年生)	—	58.2%

*①・②は9歳までに生活リズムを身につける目標のため小学1～3年の数値を掲載、③は電子メディアとの付き合いが難しくなる小学4年生以上の数値を掲載した。令和元年度よりアンケートを変更し、中高生と統一した。

(7) 親子食育推進事業

妊娠期から「おいしい朝ごはん（おかずのある朝ごはん）」の重要性を啓発し、幼児期以降は、キッズ・キッチン、ジュニア・キッチン等の調理体験を通じ、「食」への関心が高まるよう努めています。また、各種教室や該当者への個別栄養相談等を実施し、栄養バランスのとれた食生活の実践について支援を行っています。

【食育推進事業の状況と園児の肥満出現率】

区分	平成 30 年度	令和元年度
乳幼児食事指導参加者数	1,141 人	1,009 人
ステップアップ離乳食講座参加者数	64 組	63 組
ハッピー育児会参加者数	59 組	48 組

区分	平成 30 年度	令和元年度
キッズ・キッチン、ジュニア・キッチン参加者数	810 人	768 人
キッズ・キッチン、ジュニア・キッチン満足度	100.0%	99.0%
園児の肥満出現率	3.5%	5.1%

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 妊娠アシスト事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パパマママタニティスクールの参加者数は前年度より増加し、妊婦だけでなく家族で出産、育児について学ぶことができます。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適なマタニティライフを支援するために、利用者のニーズを把握し、ニーズに合った教室となるよう、内容を検討します。 		
(2) 妊産婦医療費助成事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初予算額以上の実績となっています。 		
(3) 乳幼児すこやか事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児健康診査は、未受診者への受診勧奨を行うことにより、高い受診率（98%以上）を維持しています。 ・ 市民公開講座を2年に1回行うことで、発達障がいに対する理解が深まり、発達障がいという言葉が「知っていて意味も理解している」割合が増加しています。 		
(4) 親子の絆応援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月児訪問やおっぱい相談等で母乳育児支援を行っていますが、昨年度より母乳育児率が減少しています。 ・ 小中学生が命の大切さを学ぶ場として、赤ちゃんふれあいスクールや性教育に取り組みました。参加した子どもたちは、家族への感謝や愛を感じ、子育ての大変さを実感していました。 <p>【課題解決に向けた取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も愛着形成の重要性について周知し、親子の絆が深まるよう訪問や各種教室・相談事業に取り組みます。 		

(5) めだか園運営事業	評 価	遅れている
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容は順調ですが、めだか園の学習スペースが利用者数に対して狭小で、登録者数をこれ以上増やすことが難しい現状です。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な発達支援のための体制整備を進めます。 		
(6) 早寝早起きおいしい朝ごはん事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教室や家庭での取組等により一定の水準を維持しています。一方で、課題となっている児童生徒の電子メディア接触時間については、制限するのは難しくなり、事業の内容を見直していく必要があります。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き規則正しい生活リズムの大切さについて普及啓発を進めるとともに、電子メディアについては、上手な関わり方を考えていきます。 		
(7) 親子食育推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> キッズ・キッチン は市内全園が実施し、アンケート結果から他の食育教室を含め満足度は高い状況を維持しています。 これまで、園児の肥満出現率は、県平均を下回っていましたが、令和元年度は増加しています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診や食育教室等で栄養バランスのとれた食生活について普及啓発し、肥満園児の保護者に対しては、将来の生活習慣病を予防するため、個別栄養指導を実施します。 		

2 子育て支援の充実

- (1) 子ども・子育て推進体制の充実
- (2) 子育て家庭を支える取組の推進
- (3) 保育サービスの充実
- (4) 子育てと仕事の両立支援
- (5) 地域で行う子育て支援

【基本方針】

多様なスタイルの子育てと仕事が両立でき、子育て世代が、子育てに自信や希望を持って子どもを産み育てたいと思えるよう支援し、安心して子育てができる環境づくりを進めます。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
子育て環境の満足度	52.4%	60.0%	70.0%

2 施策の方向

(1) 子ども・子育て推進体制の充実

- 糸魚川市子ども一貫教育方針に基づき、市民が子育てについて理解と認識を深め、家庭、地域、幼稚園、保育園、学校等が相互に協力し、地域社会が一体となった子育てを推進します。

(2) 子育て家庭を支える取組の推進

- 育児相談や子育てサークルの活動支援の中心となる子育て支援センターの事業内容を充実します。
- 発達支援センターめだか園では、発達や成長に不安のある子どもと保護者に対する適切な相談や支援を行い、子どもの発達を促します。
- 児童虐待等の発生予防と早期発見に努め、子どもに関する様々な相談に適切に対応するため、要保護児童対策地域協議会を中心に継続的に必要な支援を行います。
- 保育料の軽減や子ども医療費助成などにより、子育てに係る保護者の経済的負担の軽減を図ります。

(3) 保育サービスの充実

- 需要が高まっている0～2歳の保育の場を確保するため、認定こども園や地域型保育事業等、既存の保育園に加え多様な選択ができる環境整備を進めます。
- 一時保育や時間外保育、病児・病後児保育等、個々の事情に柔軟に対応できるよう、事業の拡充を図ります。

(4) 子育てと仕事の両立支援

- 育児をしながら働く保護者へ育児支援の各種制度の充実を図るとともに、企業に対して短時間勤務の導入などを働きかけ、就労環境の整備を推進します。

(5) 地域で行う子育て支援

- 子育てに関する援助を求める世代と援助できる世代間の交流拡大を図り、地域全体で子育て中の家庭を支える体制や子育てしやすい環境整備を推進します。

3 事業内容（主要事業）

(1) 特別保育事業

・一時保育事業

家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児（未就園児）を対象に、1日単位で利用できる保育を実施しました。

【一時保育の年間利用児童数】

区分	平成30年度	令和元年度
公立保育園（2園）中央、寺地	338人	334人
私立保育園（5園） はやかわ、いくみ、能生、おひさま、ひまわり	837人	503人
合計	1,175人	837人

(2) 休日お助け保育事業

就労等により、保護者が休日に家庭で保育できない場合に、ヴィラオレッタキッズランドで保育を実施し、保護者に対してその費用の一部を助成しました。

【休日保育の年間利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
利用日数	91日	119日
総利用者数	370人	664人

(3) 子ども医療費助成事業

0歳から高校卒業年齢までの子どもの医療費について助成しました。

※一部負担金（保護者負担額）：通院・調剤530円／日（同月同一医療機関5回目以降は無料）、入院無料

【子ども医療費助成の実施状況】

区分	平成30年度	令和元年度
助成件数	60,358件	58,024件
助成給付額	96,264,059円	97,432,529円

(4) 病児・病後児保育事業

育児と仕事の両立支援のため、生後6か月から小学6年生までの児童で、病期中または病気の回復期にあつて、家庭での保育ができない児童を一時的に預かる病児・病後児保育を実施しました。

【病児・病後児保育の年間利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
延利用児童数（病児・病後児）	458人	427人

(5) 子育て支援センター運営事業

未就園児とその保護者にとっての交流の場として機能を果たし、育児相談がしやすい環境となるよう努めました。

【子育て支援センターの利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
利用者数	21,224人	12,940人
相談件数	16件	9件

(6) ファミリーサポートセンター事業

地域全体で子育てをサポートする取組として、会員の募集に努め、事業実施しました。

【ファミリーサポートセンターの利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
提供会員	21人	22人
依頼会員	40人	41人
年間活動回数	268回	198回

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 特別保育事業	評 価	おおむね順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none">出生数の減少及び0、1歳児の保育園等への入所率の増加に伴い、一時保育事業の利用者数が減少していますが、登録数は横ばいであり、保護者ニーズには対応しています。 【課題解決に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none">利用者の多様なニーズに対応できるように引続き事業の周知を図ります。		
(2) 休日お助け保育事業	評 価	順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none">両親共に介護・医療系やサービス業に従事したり、一人親世帯が増えたこと等により、登録者数、利用者数は共に増加しており、保護者ニーズに対応しています。		
(3) 子ども医療費助成事業	評 価	おおむね順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none">対象となる範囲を順次拡大してきており、市民の満足度は高いと考えますが、県内では、医療費の自己負担を無料としている自治体もあります。 【課題解決に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none">当面は現状維持としますが、県内の状況を把握しながら、必要に応じて更なる助成について検討します。		

(4) 病児・病後児保育事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数により国からの交付金の変動することから、一定数が確保できないと、運営に支障が生じる恐れがあるため、国の交付金に加算して市独自の補助を実施しており、適切な運営となるよう努めています。 		
(5) 子育て支援センター運営事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者が大幅に減少しました。少子化に加え、共働き等で、早期に保育園へ預ける保護者が増えていることが理由と考えられます。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の利用形態とあり方について、将来的に検討します。 		
(6) ファミリーサポートセンター事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員数は増加傾向にありますが、特定の会員のみが利用する現状があります。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子育て世帯を支えるために有効な事業であることから、事業周知を図り、会員・利用率の増に努めます。 		

3 就学前教育の充実

- (1) 家庭教育の充実・強化
- (2) 乳幼児教育の充実
- (3) 幼稚園・保育園、小・中・高等学校の交流と連携の推進

【基本方針】

愛着形成の重要性を家庭と共有し、より良く生きるための基礎を育てます。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
糸魚川の自然を利用した遊びをしている割合 (4～6歳)	57.7%	70.0%	70.0%
1日1回は、自分の子を誉める保護者の割合 (4～6歳)	98.0%	100%	100%

2 施策の方向

(1) 家庭教育の充実・強化

- 講演会、乳幼児健康診査などを通して、子育ての土台となる親子の愛着形成、自己肯定感を育む子育ての重要性を啓発します。
- 2か月児訪問や子育て支援センターでの積極的な声かけなどにより、保護者の子育ての不安、悩みの解消に努めます。

(2) 乳幼児教育の充実

- 愛着形成の重要性共有など、家庭、地域と連携した教育を推進します。
- 幼稚園・保育園での遊びを中心とした生活を通して、発達に応じたきめ細やかな指導により、豊かな感性や道徳性、課題を解決する力の育成を図ります。

(3) 幼稚園・保育園、小・中・高等学校の交流と連携の推進

- 子ども一貫教育基本方針に基づき、関係機関が共通理解、情報交換を行い、切れ目のない支援に取り組みます。
- スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの作成・実践への取組、中学生の保育実習等、校種間の一層の連携と協力を推進します。

3 事業内容（主要事業）

(1) 子ども一貫教育推進事業

糸魚川市子ども一貫教育方針の中から家庭でできる子育ての方法やヒントを子どもの年齢別にまとめた「子育て応援BOOK」を作成し、「0～3才版」については2か月児訪問、「4～6才版」は幼稚園・保育園の入園の際などに配布しています。

また、各幼稚園・保育園での健康教室も開催し、糸魚川市子ども一貫教育方針における家庭の役割について理解を深めました。

(2) マタニティスクール【再掲】

妊婦を対象としたマタニティスクールや妊婦と父親を対象としたパパマママタニティスクールを実施し、出産や育児に関する知識や技術を身につけるとともに、心配や不安なことを少しでも解消し、安定したマタニティライフを送ることができるように取組を行っています。また、スクールは仲間づくりの場にもなっています。

【マタニティスクール等の参加状況】 【再掲】

区分	平成30年度	令和元年度
マタニティスクール参加者数	26人	16人
パパマママタニティスクール参加者数	55人	72人

(3) 親子の絆応援事業【再掲】

0歳からの愛着形成推進のため、2か月児訪問、おっぱい相談、すくすく赤ちゃん広場を開催し、母乳・抱っこ・おんぶ等の具体的な育児方法の助言等を行っています。

小中学生を対象とした赤ちゃんふれあいスクールでは、子どもたちと赤ちゃんとのふれあい体験を通して、愛着形成や生命の大切さを学習する機会を提供しています。

【母乳育児率及び愛着形成事業参加者数】 【再掲】

区分	平成30年度	令和元年度
母乳育児率（4か月未満児）	53.7%	46.2%
すくすく赤ちゃん広場参加者数	延241人	延195人
赤ちゃんふれあいスクール参加者数	687人	596人

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 子ども一貫教育推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て応援BOOKを、2か月児訪問時や幼稚園・保育園では保護者の集まる機会をとらえて配布し、家庭と園で共通理解のもと、子育てを行う仕組みを作りました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの電子メディアの接触時間増加が、健全な成長に与える影響について、あらゆる機会を通じ、一層の周知を図ります。 		
(2) マタニティスクール【再掲】	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> パパマママタニティスクールの参加者数は前年度より増加し、妊婦だけでなく家族で出産、育児について学ぶことができます。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 快適なマタニティライフを支援するために、利用者のニーズを把握し、ニーズに合った教室となるよう、内容を検討します。 		
(3) 親子の絆応援事業【再掲】	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2か月児訪問やおっぱい相談等で母乳育児支援を行っていますが、昨年度より母乳育児率が減少しています。 小中学生が命の大切さを学ぶ場として、赤ちゃんふれあいスクールや性教育に取り組みました。参加した子どもたちは、家族への感謝や愛を感じ、子育ての大変さを実感していました。 <p>【課題解決に向けた取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も愛着形成の重要性について周知し、親子の絆が深まるよう訪問や各種教室・相談事業に取り組みます。 		

4 質の高い学校教育の推進

- (1) 魅力ある学校づくりの推進
- (2) 確かな学力の育成
- (3) いじめや不登校のない学校づくりの推進
- (4) ふるさと学習による郷土愛の醸成
- (5) 一人ひとりの教育的ニーズに対応する体制の充実

【基本方針】

家庭、幼稚園・保育園、学校、地域が連携して、自立して生きる力を身につけた子どもを育てます。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
標準学力検査の偏差値平均 (小学6年生)	51.7	55.0	55.0
標準学力検査の偏差値平均 (中学3年生)	51.1	52.0	52.0

2 施策の方向

(1) 魅力ある学校づくりの推進

- 児童生徒が社会人・職業人として成長するために、自分の可能性を自覚し、将来像を描いて自主的に学ぶ教育活動のさらなる推進を図ります。
- 学校と、地域や地元企業、産業が連携し、児童生徒の社会貢献活動や職場体験等の充実を図ります。

(2) 確かな学力の育成

- 家庭と学校が連携し、基礎的・基本的な内容の定着を図り、また自ら学び自ら考える力などの『生きる力』をはぐくむ授業改善に取り組みます。
- 児童生徒の学習保障のために、人的配置や財政支援を実施します。

(3) いじめや不登校のない学校づくりの推進

- いじめや不登校を生まない学校風土づくりのために、児童生徒の思いやりの心と自主性を育成する自治的な活動、リーダーの育成を推進します。
- 家庭や地域と連携して、地域全体で規範意識、自己有用感や人間関係づくりの力等を育てる教育活動を推進します。

(4) ふるさと学習による郷土愛の醸成

- ふるさとに愛着をもち、心豊かで自己肯定感の高い子どもを育てるため、ジオパーク学習を中心とした体験学習の充実を図ります。

(5) 一人ひとりの教育的ニーズに対応する体制の充実

- 子どもの悩みや課題に応じた適切な指導、支援のために、教育相談体制を充実します。
- 学校の生活や学習に困り感を持つ子どもの個別のニーズに応じた支援体制の充実を図ります。

3 事業内容（主要事業）

(1) 子ども一貫教育推進事業

【教育懇談会の開催状況】

通算回数 (実施日)	テーマ・演題・講師	対象者
第19回 (7月28日)	『キャリア教育フォーラム in いといがわ』 パネルディスカッション テーマ：「住みよく明るい糸魚川を未来へ」 コーディネーター：小見 まいこ 氏 パネリスト：市内中高生、PTA代表、とんかつイン ター山崎氏、(株)アオ五十嵐氏 コメンテーター：木村 直人 氏（文部科学省）	一般市民 幼・保・小・中・ 高校の教職員
第20回 (2月7日)	○活動紹介「高校を核とした地域人材育成の取組」 発表者：久保田産学官推進企画幹 小見 まいこ 氏 ○3高校における地域連携事業の紹介 ○グループ協議 テーマ：夢、アイデアを生かした人づくり、 まちづくりのために地域ぐるみで できること 指導者：田中 統治 氏	商工会議所 青年会議所 市内3高校生 小・中・高校の 校長、幼・保育 園の園長、保護 者、地域住民

この他、子育て応援BOOK（小学生版）を作成し、子育てに活用いただけるよう、全児童保護者及び教職員へ配布しました。また、子育て応援BOOK（中高生版）も配付を予定しています。

(2) コミュニティ・スクール推進事業

平成28年度は、糸魚川小学校、ひすいの里総合学校、平成29年度は磯部小学校、田沢小学校、平成30年度は、西海小学校、糸魚川東小学校、大野小学校、根知小学校、糸魚川中学校、令和元年度は、能生小学校、南能生小学校、中能生小学校、木浦小学校、下早川小学校、大和川小学校、青海小学校、能生中学校、糸魚川東中学校、青海中学校が運営事業を始め、市内全ての学校でコミュニティ・スクールがスタートしました。

(3) キャリア教育推進事業

市教育委員会事務局が中心となって協力事業所リストを作成し、学校応援隊の協力により、市内協力事業所142社（前年度142社）で5日間、中学生職場体験学習を実施しました。実施後、中学校で、職場体験学習報告会を開催しました。

また、7月28日に「キャリア教育フォーラム in いといがわ」を開催し、教育関係者や子どもを含む一般市民が参加（168名）しました。

(4) 高校を核とした地域人材育成事業

文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に市内3高校と連携し応募したところ、地域協働推進校（アソシエイト）の指定を受けました。

その取組を進めるため、市民・高校生向けの講演会、各学校の探究学習への支援、企業と連携した学外事業などを行いました。

また、市内3高校の魅力づくりの取組に対して支援することを目的に、高等学校魅力づくり支援事業補助金として、各高校を支援する団体（PTA等）へ、それぞれ50万円（上限）を補助しました。

(5) 学力向上支援事業

標準学力検査（NRT）の実施や日本漢字能力検定及び実用英語技能検定の検定料の補助を行い、児童生徒の学習意欲の向上を図りました。

また、小学校全校で陰山メソッドによる学力向上対策を実施し、集中力と基礎学力の向上を図るとともに、小学校全校で統一的な取組ができるよう小学校教職員を対象に学力向上研修会を開催し、陰山英男氏による示範授業や講演を受講しました。

他に、小中学校の希望校において、授業支援及び放課後や長期休業等を活用した補習学習等にかかる指導員の配置事業を実施しました。

【検定料補助金交付者数】

区分	平成30年度	令和元年度
日本漢字能力検定（小学生）	355人	374人
日本漢字能力検定（中学生）	138人	150人
実用英語技能検定（小学生）	50人	52人
実用英語技能検定（中学生）	393人	464人
実用数学技能検定（小学生）	2人	6人
実用数学技能検定（中学生）	54人	56人

(6)教職員資質・指導力向上事業

教職員の指導力向上のために研修機会の充実を図り、児童生徒への教育や指導などに、どのように反映したかを検証しました。

初任者研修のボランティア体験研修と採用3年目の職員を対象としたグロースアップ研修の若手育成の研修機会も継続して実施しました。

【教職員の県外研修等の状況】

区分	平成30年度	令和元年度
県外研修補助件数	14件	18件
教職員研修講座数	21回	21回

(7)いじめ・不登校等対策支援事業

教育相談センターに嘱託指導主事1名、子どもの教育相談員7名、適応指導教室指導員4名を配置し、児童生徒や保護者、教職員への相談活動等を行い、悩みや不安の軽減、解消等の成果を上げています。令和元年度より適応指導教室（能生地域）と若者サポートセンターを新設し、計3名の相談員等を配置しました。

生徒指導支援員を3名配置し、いじめ・不登校防止に向けて、児童生徒の指導方法について教員を指導し、未然防止を図りました。

スクールソーシャルワーカーを1名配置し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図りました。

(8)ふるさと糸魚川学習支援事業

幼稚園・保育園での自然体験活動、小・中学校における生活科と総合的な学習の時間において、各園、校の地域に根差した、ふるさと糸魚川を学ぶ取組を実施しました。

学習の成果を発表する場として「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク学習交流会」を開催し、幼稚園、小、中、高等学校から19校が参加し、交流しました。

(9)教育補助員等配置事業

特別支援教育における個別支援を中心に小学校34人、中学校10人、特別支援学校4人、合計48名の教育補助員（介助員1名を含む）を配置しました。

学校司書は、糸魚川小学校（糸魚川地域）、田沢小学校（青海地域）及び能生小学校（能生地域）に1名ずつ計3名を配置し、読書量の増加や授業の充実のために図書館の活用を図りました。

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 子ども一貫教育推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none">年2回開催した教育懇談会は、キャリア教育の視点から市内中高生から積極的に関わってもらいました。学校関係職員だけでなく、産学官の連携を密にし、多数の関係者・地域住民・保護者が参加し、0歳から18歳までの子どもを連携・協働で育てるため、地域ぐるみで学校づくりを行う行動連携について話し合いました。懇談会終了後のアンケートでは、肯定的な意見が多く寄せられています。幼保・小連携、小・中連携、中・高連携の取組が発展しています。小・中・高の校長会を実施し、キャリア教育の推進と地域人材の育成に向けて連携を図ることができました。子育て応援BOOKは、本年度より保護者へ配布としました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none">学校間の連携は進んでいますが、子ども一貫教育の基本理念にある「地域ぐるみ」の子育てという観点で、地域・保護者との連携を密にした取組を拡充していきます。		

(2) コミュニティ・スクール推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・家庭・地域で情報や課題・目標・ビジョンを共有しながら、各学校の特色を生かして事業に取り組み、家庭・地域の理解を得てきました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も地域ぐるみで子どもを育てる環境が整うよう支援を継続します。 		
(3) キャリア教育推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校においては、継続して5日間の職場体験を実施することにより、受け入れ事業所の理解が深まるとともに、体験内容が充実してきています。 ・ 小学校においては、学校運営協議会を活用し、講師を招いてキャリア教育の講演等が一般的に行われるようになっていきます。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内学校の共通取組を重点化して実施し、子ども一貫教育の重要な柱として位置付けているキャリア教育を一層推進します。 		
(4) 高校を核とした地域人材育成事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年はアソシエイトの指定を受けた初年度として、高校の魅力化に取り組むために市内3高校と連携して各種事業を実施しました。 ・ 探究的な学びの実現に向けて、各高校の意識も徐々に変わりつつあります。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校を核とした地域人材育成に向けて、更なる事業展開を図る必要があります。 ・ 県の高等学校再編整備計画による「地域との連携」を重視し、学校と協議の上、魅力化と情報発信につながる事業化を図ります。 		
(5) 学力向上支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校では陰山メソッドの取組を通して、基礎学力の向上が見られました。 ・ 各種検定の受験者数が増加傾向にあります。 ・ 小・中学校ともに本事業を活用する学校が増え、児童・生徒の個に応じた学習を行うことができました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業改善チェックリスト」とICTを活用した「分かる授業」の推進が進むように指導を継続します。 ・ 小学校段階での学びが中学校へつながるよう、小中の連携をさらに進めます。 		

(6) 教職員資質・指導力向上事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領に対応できる研修会の実施や新採用3年目職員対象の若手養成研修等、ニーズに合った研修会を設定しました。 ・ 県外研修補助は、教職員の自主的な研修の活性化につながり、教職員の資質・能力を高めるための支援となりました。 ・ 今後も学校現場のニーズに合った研修会の企画運営に努めます。 		
(7) いじめ・不登校等対策支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市いじめ防止基本方針及びいじめ防止等の行動計画、いじめ防止に向けた取組について関係機関へ周知しました。 ・ いじめの早期発見と解決に向けて、生徒指導支援員や相談員等との密接な連携により、学校と教育委員会が一体となって取組を進めています。 ・ 市適応指導教室、中学校の校内適応指導教室に学習支援員の配置（派遣）継続により、通級する児童生徒への学習支援が充実しています。 ・ 能生地域に適応指導教室を増設したことにより、能生地域においても活用しやすい環境が整ってきました。 ・ おおむね25歳未満の青年及びその保護者を対象とした、若者サポートセンターを開設することで、中学校卒業後の青年への支援体制が整ってきました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめの重大化や不登校児童生徒の増加、長期化の未然防止のため、一層の情報共有を進め、早期発見と早期対応に着手できる体制の構築に努めます。 		
(8) ふるさと糸魚川学習支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク学習交流会」では、幼稚園、小、中、高等学校の参加を得て、19校の発表が行われました。発表・鑑賞・意見発表を通して、ふるさと糸魚川への理解と愛着がさらに深まりました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会の発表形態を見直し、多くの学校が参加しやすい環境を整えます。 		

(9) 教育補助員等配置事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級を1学級増設（支援を要する児童生徒の全体に占める割合は平成30年度と比べて14%増加）しました。教育補助員については、必要数48名を全て配置することにより、10月からは適切な体制を確保することができました。 ・ 学校司書を3地域に1名ずつ継続して配置しました。司書が定期的に担当学校を巡回することにより、子どもが図書室を活用しやすい環境が維持され、教職員も学習に必要な情報を共有することができました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を要する児童生徒の増加に伴って、特別支援学級数や教育補助員の必要数の増加が見込まれます。令和元年度も年度途中からの充足だったため、欠員が生じないように努めます。 <p>学校司書の資質向上による図書館教育の充実に寄与するため、研修の機会の提供に努めます。</p>		

5 学校等教育環境の整備

- (1) 教育環境の充実と教育施設の適正管理
- (2) 安全・防犯対策の充実

【基本方針】

充実した教育環境と安全性を確保するために施設の適正管理を進めます。また、より良い教育環境を確保するために学校の適正配置方針を検討し、計画的な改修、施設・設備の更新により、安全、安心で快適な教育環境の整備を進めます。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
防災機能強化（天井等落下防止）対策済みの学校数	21校/21校	21校/21校	—
大規模改修（新築・改築含）の実施校数	11校/21校	12校/21校	13校/21校

※注）21校は旧浦本小、旧上早川小、旧市振小も含まれる。

2 施策の方向

(1) 教育環境の充実と教育施設の適正管理

- 学校の適正規模や配置についての検討を進め、長寿命化計画を含めた学校適正配置方針を定め、より良い教育環境を確保します。
- ICT教育の推進を図るため、無線LANの整備や教育用PCの更新、大型提示装置を配置し、授業等での利用促進につなげます。合わせて使用する教職員に対する研修やサポート体制についても充実します。

(2) 安全・防犯対策の充実

- 通学路等での事故防止への取組や防犯パトロールを継続するとともに、地域やPTA、警察等関係機関との連携による情報共有に努め、安全対策や防犯対策を進めます。

3 事業内容（主要事業）

(1) 学校改修事業

内容	事業費	説明
大和川小学校改修工事	11,084 千円	外部建具改修 アルミ製建具改修 屋上手摺修繕 アルミ手摺取付 16.0m
青海小学校改修工事	3,023 千円	音楽室屋上防水改修 ウレタン塗膜防水床面 169.0 m ² ウレタン塗膜防水立上り 42.4 m ²
能生中学校校舎大規模改修工事	64,518 千円 ※全体事業費 122,125千円	エレベーター新設 既存ダムウェーター撤去 11人乗りエレベーター新設 トイレ改修 生徒トイレ、職員トイレ改修 既存換気扇取替 多目的トイレ新設 給排水、衛生器具新設 工事監理業務委託
糸魚川中学校改修工事	2,233 千円	職員玄関電気錠設置 自動扉、電気錠設置 電気室搬入扉修繕 アルミ製建具修繕
青海中学校改修工事	4,536 千円	体育館屋根漏水修繕 雪止めアングル撤去 380m 耐候性透明シート張り 360m 職員玄関改修 モーター付きインターホン取付 玄関ドア取替 電気錠取付

(2) 小学校プール改修事業、グラウンド改修事業

内容	事業費	説明
能生小学校プールフェンス改修工事	1,080 千円	ネットフェンス設置 21.6m シャワー排水部分改修 プール用床塗装 11.2 m ²

(3)空調設備等改修事業

内容	事業費	説明
小学校空調設備整備工事	154,206 千円	空調設備取付（全校） パッケージエアコン 108 台 ルームエアコン 3 台
中学校空調設備整備工事	67,206 千円	空調設備取付（全校） パッケージエアコン 47 台

(4)防犯パトロール事業

通学路等での事故防止のため、防犯パトロール員が児童の登下校時の見守りを実施しました。

【防犯パトロール員登録者数】

区分	平成30年度	令和元年度
防犯パトロール員登録者数	168人	133人

(5)学校ICT環境推進事業

普通教室の無線LANを小学校5校、中学校3校に設置し、小学校10校、中学校4校が整備済みとなりました。

デジタル教科書の導入状況は、以下のとおり。

小学校：5年、6年の算数及び1学年×1教科

中学校：全学年の数学と英語及び3学年×1教科

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 学校改修事業	評価	おおむね順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none"> 学校改修事業は、糸魚川市学校施設長寿命化計画に基づき、学校の長寿命化を図るため、順次改修を行っています。 長寿命化以外に、経年による老朽化に伴う修繕も随時行っており、学校からの要望や現地を確認しながら実施しています。 学校の防犯対策として、職員室玄関の電子錠設置工事も順次進めており、令和元年度は糸魚川中学校、青海中学校で工事を行いました。 中学校の大規模改修工事は、長寿命化を図るために順次行っているもので、平成30年度からは能生中学校で実施しています。平成30年度はトイレ改修 		

<p>とエレベーター新設工事を先行して実施し、令和元年度は校舎の大規模改修として屋上と外壁の全面防水、老朽化している建具、受電設備、消火設備の取替などを行いました。</p> <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設は、児童生徒の学習と生活の場であるとともに地域コミュニティや防災拠点、避難所としての役割を果たす施設でもあるため、エレベーター、多目的トイレ、電子錠や防犯カメラの設置など、ユニバーサルデザインやバリアフリー化による防災機能の強化を積極的に進めていく必要があります。 ・ 災害発生時においても所要の安全を確保できるよう、安全化対策を推進するとともに、トイレ洋式化や空調設備の設置等により、衛生環境や居住環境の改善を必要があります。 ・ 長寿命化を実現するための改修計画は、老朽劣化度や危険性、改修の有効性等を勘案した整備優先度に基づき、計画的に実施することが重要です。 		
(2) 小学校プール改修事業、グラウンド改修事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プール改修については、施設の状態を見ながら小修繕等を行い、管理しています。 ・ グラウンド改修は、ありませんでした。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、全ての小学校にプールが設置されていますが、建築後40年以上経過しているプールが多数を占め、老朽化が進行しています。 ・ プールは使用期間に比べ、光熱費や修繕費等の維持管理費が多額となるため、今後は各小学校の実情を踏まえながら、個別に方向性を検討する必要があります。 		
(3) 空調設備等改修事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の30年度補正予算（特例交付金）で未設置の小中学校分がすべて補助採択されたことを受け、令和元年度までの2か年で全ての小中学校普通教室にエアコンを配備しました。 ・ 今後は、学校の要望を聞きながら、分散授業を行う多目的教室や利用頻度の高い特別教室など、利用状況に応じたエアコンの設置を進めます。 		
(4) 防犯パトロール事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯パトロール員から、見守り活動を通じて子どもと接することが、心身 		

<p>の健康につながるという声をいただいています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢などの理由により、防犯パトロール員の新たな受け手がいないことが課題となっています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校のコミュニティ・スクール等で協議し、地域と学校が一体となった見守り体制を構築します。 		
(5) 学校 I C T 環境推進事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書については、授業における活用が進んでおり、児童生徒の興味関心が高まっている状況です。 ・ 1人1台の教育用P C 導入に向けて大型提示装置などの周辺機器を順次整備するとともに、デジタル教科書の導入やプログラミング教育に対応する I C T 教育環境の整備及び学校 I C T 支援員の配置を進めております。 		

第2 生涯学習の充実

1 社会教育の充実

- (1) 推進体制の充実
- (2) 青少年の学習機会の充実
- (3) 親と子の学習機会の充実
- (4) 成人・高齢者の学習機会の充実
- (5) 施設の機能充実と有効活用
- (6) 図書館機能の充実

【基本方針】

市民一人一人がふるさとを愛し、心豊かに暮らすため、生涯各期にわたる学習機会の充実を図ります。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
各種講座等事業の市民1人当たり参加回数	1.2回	1.4回	1.5回
図書館の市民1人当たり貸出冊数	5.5冊	6.1冊	6.3冊

2 施策の方向

(1) 推進体制の充実

- 地区公民館を拠点に地域住民による自主的な学習活動や地域活動を充実させ、市民と行政が協働してひとづくり・まちづくりを推進します。
- 団体やグループの活性化のため、リーダーの育成や支援体制を強化します。

(2) 青少年の学習機会の充実

- 青少年の自然体験活動や異なる年齢の人々との交流活動を促進し、社会の中で自立し、協調できる青少年を育成します。
- 地域の自然や文化・伝統等を学ぶ機会や支援体制を充実させ、ふるさと糸魚川に愛着と誇りを持てる子どもを育成します。

(3) 親と子の学習機会の充実

- 幼稚園・保育園、学校、地域、関係機関が連携して、生活スタイルや家族関係の多様化に対応した学習機会を提供し、家庭における教育力の向上に努めます。

- 子どもの健全な成長を育み、より良い親子関係づくりを推進するため、体験活動などの取組を強化します。

(4) 成人・高齢者の学習機会の充実

- 多様な学習機会の提供により、利用者の増加を図り、他の事業との連携を強化するとともに、地域の人材発掘や学びの成果が生かされる環境の整備を推進します。
- 公民館事業の充実に向けて、各館のさらなる情報共有を図るとともに、地域課題に取り組む事業を推進します。

(5) 施設の機能充実と有効活用

- 施設の大規模改修は計画的に行い、適切な維持管理により有効活用を図るとともに、将来的な地域振興の核として多機能化を図ります。

(6) 図書館機能の充実

- 利用者のニーズの把握に努めるとともに、新刊図書、郷土資料、新聞、雑誌などの資料を充実させ、更に利用しやすい図書館づくりに取り組みます。
- 子ども読書活動推進計画に基づき、家庭・学校等と連携し、読書環境の整備や啓発活動を行います。

3 事業内容（主要事業）

(1) 成人教育事業

市民活動や地域活動のリーダーや青少年活動の指導者を育成する「おとなのワクワク探検隊」のほか、料理教室や英会話体験教室などの「生涯学習講座」、地区公民館でのジオパーク学習など「地区生涯学習活動推進事業」を実施しました。

平成30年度に糸魚川・上越の2市合同で開催した社会教育連携歴史講座については、令和元年度では2市連携講座のほかに、妙高市を含めて上越地区広域連携社会教育事業としても実施しました。

高齢者の学びなおしを目的に、地区公民館を会場に「おみちよう英会話」を開催しました。

また、個人の学習成果を地域の学校で生かす「学校支援地域本部事業」を実施しました。

【成人教育事業参加者数】

区分	平成30年度	令和元年度
おとなのワクワク探検隊参加者数	31人	7人
上越地区広域連携社会教育事業参加者数	71人	176人
生涯学習講座参加者数	121人	102人
地区生涯学習活動推進事業参加者数	2,748人	2,589人
学校支援ボランティア	24,179人	21,935人

(2) 青少年活動事業

青少年の豊かな心とたくましく生きる力、郷土愛を育むことを目的とした「ワクワク探検隊」や「海とあそぼう」などの体験学習事業、遊びながら仕事や防災について学ぶ「キッズフェスタ」を開催しました。「キッズフェスタ」は、県子ども会育成連合会による「子どもの遊びの広場」と同時開催したことにより、参加者が増えました。

【青少年活動事業参加者数】

区分	平成30年度	令和元年度
ワクワク探検隊参加者数	106人	94人
海とあそぼう参加者数	130人	167人
キッズフェスタ参加者数	500人	650人

(3) 成人式事業

成人を祝い、成人としての自立を促すための「成人式」を開催しました。開催にあたり、成人式実行委員会を立ち上げ、アトラクション等の内容を自分たちで企画、運営してもらいました。

【成人式事業出席者数】

区分	平成30年度	令和元年度
成人式出席者数	344人	341人

(4) 家庭教育支援事業

就学時検診や移行学級の機会を活用した保護者向け「子育て講座」や、人の気持ち分かる想像力豊かな子どもを育むことを目的に、親子での自然体験活動を行う「ふるさと楽習親子塾」を実施しました。

また、家庭学習の習慣付けと子どもの居場所づくりのため、平成30年度から図書館を会場に「土曜自習室」を開設しましたが、令和元年度については参加者数は減少しました。

なお、身体を使ったダイナミックな遊びを通じて子育てを楽しく学ぶ父親対象講座「お父さんとあそぼう」は、例年冬に市保育士を講師に開催していましたが、インフルエンザの流行を避けるため6月に変更し、外部講師によって開催しました。

【家庭教育支援事業参加者数】

区分	平成30年度	令和元年度
子育て講座参加者数 (学童期・思春期・中学生等・親子ふれあい)	1,059人	678人
ふるさと楽習親子塾参加者数	127人	105人
土曜自習室参加者数	123人	64人
お父さんとあそぼう参加者数	インフルエンザ流行 により中止	30人

(5) 図書館資料整備事業

図書(4,885冊)の購入により図書館資料の充実に努めました。

「ジオパークコーナー」「相馬御風コーナー」を常設し、「夏休み自由研究」等のテーマ別に随時コーナーを設置し、関係資料の展示、情報提供などの充実に努めました。

【市民図書館蔵書冊数】

区分	平成30年度	令和元年度
市民図書館	154,312冊	154,038冊
能生図書館	57,817冊	58,742冊
青海図書館	81,999冊	82,276冊
3館合計	294,128冊	295,056冊

(6) 絵本ふれあい事業

ブックスタート、紅梅文庫資料の公開、絵本の原画展など絵本の魅力を活用し、家庭における読書のきっかけづくりとなる事業を実施しました。

【絵本ふれあい事業参加者数】

区分	平成30年度	令和元年度
紅梅文庫一般公開参加者数	61人	22人

(7) 地区公民館・生涯学習施設整備事業

【生涯学習施設整備事業】

内容	事業費	説明
市振支館改修工事設計業務委託	4,961千円	改修工事設計業務 一式

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 成人教育事業	評価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none">平成29年度から実施しているリーダー育成事業「おとなのワクワク探検隊」は、5回講座を1回講座としたため参加人数は減りましたが、事業の企画から実技指導まで実践的な学びの機会を提供できました。上越市、妙高市との3市広域連携事業は、「知っているようで知らない地域学習」が参加者には好評でしたが、参加者同士の交流までには至りませんでした。高齢者の学びなおしを目的に開催した「おみちよう英会話」は、地区公民館を会場としたことで、参加者数は多くはありませんでしたが、自分の地域の観光資源を英語で学びなおす点が好評でした。「学校支援地域本部事業」については、コミュニティ・スクールとの連携を強化するため「地域コーディネーター」を「地域学校協働活動推進員」として制度を改め、校長会で説明しながら準備してきましたが、「学校支援地域本部事業」から「地域学校協働活動」への過渡期であり、制度の本格稼働にはまだ時間を要しています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none">「おとなのワクワク探検隊」事業は、青少年活動のリーダー育成のために継続するとともに、その人材を青少年活動推進隊として活用する仕組みづ		

<p>くりをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域連携事業は新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年度は中止となり、再開の際は参加者同士が交流できるような内容を検討します。 ・ 社会人の学びなおしへのニーズの高まりから、「おみちよう英会話」だけでなく様々な講座をこれからも企画していきます。 ・ 地域学校協働活動は、地域総掛かりの子育て体制の核となる取組として捉え、地域学校協働活動推進員がコミュニティ・スクールの委員を兼ねることにより、地域と学校の着実な連携を図りながら、制度の定着及び地域特性に合わせた自然で柔軟な運用を進めていきます。 		
(2) 青少年活動事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ワクワク探検隊」では、化石探しや石の種類探しなど「石」をテーマにした講座を実施し、子どもたちがふるさとを学ぶ機会を提供できました。 ・ 法律の改正にともない、青少年育成指導員が令和元年度で廃止となり、新たな青少年活動の指導者組織を立ち上げる必要があります。 ・ 「海とあそぼう」は参加者が増えていますが、レジャー目的での参加が散見されます。 ・ 「キッズフェスタ」では、例年と同じく看護職体験やプログラミング体験などの職業体験と、県こども会育成連合会による「こどもの遊びの広場」による遊びブースで1日開催に拡充し、楽しく仕事を学ぶ機会を提供できました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワクワク探検隊などの週末支援事業は、学校、学年の枠を超えた子どもの交流事業であり、従来の活動方法では新型コロナウイルス対応が困難な状況です。人数を減らして回数を増やすなど、新しい生活様式に基づく新たな青少年事業の実施方法を検討します。 ・ 令和2年度から青少年活動推進隊を立ち上げ、隊員と一緒に新しい生活様式に沿った青少年事業や推進隊の今後の取組について、計画していきます。 ・ 事業の実施にあたっては、事業目的を分かりやすく参加者に伝えます。 		
(3) 成人式事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会を中心に成人式を開催し、例年規模の出席がありました。（出席率約80%） <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人式の目的を再確認し、実行委員の自主性を引き出しながら事業に取り 		

<p>組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なお、令和4年4月から成人年齢が20歳から18歳へと引き下げられますが、糸魚川市では従来同様20歳到達後に「二十歳の集い」を開催し、成人の自覚を認識する節目の事業として継続します。 		
(4) 家庭教育支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校等で行う子育て講座や地区家庭教育支援事業に係る委託料が、市の支出金が単なる財源と捉えられているケースが見受けられました。 ・ 「お父さんとあそぼう」は人気の事業ですが、もともと家庭教育に対する意識の高い親子が参加する状況です。 ・ 「ふるさと楽習親子塾」は、親子の絆を深めるとともに、糸魚川の良さを知る貴重な機会となっていますが、内容がマンネリ化しています。 ・ 「土曜自習室」は、学校とは異なる子どもの居場所の一つとして意義のある事業として、回数を増やしましたが、参加する子どもは減少しました。 ・ 家庭教育懇談会を開催し、その参加者から自習室支援員に登録していただいたり、冬休みに大学生から協力を得たりすることで、地域の支援者を増やしました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て講座や地区家庭教育支援事業については、公民館職員の予算説明会や教頭会等の機会を利用し、事業の目的をしっかりと伝えるとともに、特に重点施策を設定し、目的を持った取組を推進します。 ・ 家庭教育の基本は「正しい生活リズムの定着」あり、「お父さんとあそぼう」や「ふるさと楽習親子塾」において、幅広く親子が集まるよう多様な形で事業実施します。 ・ 「土曜自習室」については、子どもの居場所提供のほか、図書館の活用推進という視点から、参加者の自然な増加を目指して地域の人を巻き込みながら会場を増やします。 		
(5) 図書館資料整備事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の充実を図り、市民から読書に関心を持ってもらうよう努めましたが、貸出冊数は減少傾向となっている一方、登録者数はここ数年、増加傾向となっています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者からの要望にできる限り応じるために、より一層、図書の充実を図り、図書館利用者の増加に努めます。 		

(6) 絵本ふれあい事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紅梅文庫の一般公開は、会場を市民図書館に変更し、また、未公開であった稀観本の展示も実施しましたが、紅梅文庫に対する市民の関心の薄れもあり入場者数は減少しました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設や協力をいただける店舗等に絵本を設置することにより、紅梅文庫を活用し、多くの人が絵本に触れる機会の提供に努めます。 		
(7) 地区公民館・生涯学習施設整備事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の市振支館は、平成27年に市振地区公民館併設施設として整備されましたが、閉園した市振保育園を改修して市振支館とすることで地元協議を重ねながら、設計委託しました。なお、現市振支館は市振地区公民館として供用します。 		

2 スポーツ環境の充実

- (1) 生涯スポーツの振興
- (2) 競技スポーツの振興
- (3) スポーツ大会の開催と誘致の推進
- (4) スポーツ施設の環境整備

【基本方針】

生涯スポーツの推進により、市民の健康づくりや生きがいづくりを促進します。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
市民スポーツ教室、地区スポーツ教室の参加率	5.6%	7.5%	10.0%
スポーツ施設の年間1人当たり利用回数	4.9回	5.0回	5.5回

2 施策の方向

(1) 生涯スポーツの振興

- 体力や運動能力、目的に合わせてスポーツに親しむことができる機会や環境の提供、指導者の育成や資質の向上により、市民一人一人の健康づくりを促進します。
- 各種レクリエーション・スポーツ教室の開催、各種スポーツ活動に対する支援を行い、スポーツによる仲間づくりやコミュニティの活性化を促進します。

(2) 競技スポーツの振興

- 体育協会等団体の活動支援を行い、市民のスポーツへの関心を高め、競技力の向上を図ります。
- 選手の資質を最大限引き出すことと、年齢に応じた指導体制の構築と支援が必要であり、体育協会、学校、各種競技団体との連携の強化や情報交換を図り、指導者の相互連携を促進します。

※「体育協会」は令和元年度から「スポーツ協会」に名称を変更しました。

(3) スポーツ大会の開催と誘致の推進

- 競技水準の向上を図るため、レクリエーションスポーツや競技スポーツ大会、観て感動を受けるスポーツの公式競技大会やイベントなど、各種大会の開催・誘致を推進します。

- 大学等が実施するスポーツ合宿等の誘致に努め、交流の促進と競技レベルの向上を図ります。

(4) スポーツ施設の環境整備

- 計画的に整備・改修を行い、社会体育施設の適切な維持管理を推進します。

3 事業内容（主要事業）

(1) スポーツ推進事業

スポーツ教室として、いきいきスポーツ教室（3種目）、市民スポーツ教室（14種目）、地区スポーツ教室（10地区）や水泳教室を実施し、気軽に参加できる環境づくりに努めました。

冬季スポーツ振興助成事業として、子どもたちへのリフト乗車料金の助成を実施し、雪国の特性を生かしたスキー等のスポーツに親しむ機会を増やす支援を予定しましたが、少雪の影響により助成数は減少しました。

大会等の開催として、市民総合体育祭（23種目）、ソフトボールやスキー大会を実施（駅伝は台風の影響で中止）し、市民の参加と各種団体等と連携した取組を実施しました。

全国大会等出場者激励金を団体8件、個人28件、合計36件交付しました。内訳は小学校2件、中学校5件、高校19件、一般10件です。

そのほか中学校軟式野球大会開催、新潟県駅伝競走大会出場を支援しました。

【各種スポーツ教室開催状況】

区分	平成30年度	令和元年度
いきいきスポーツ教室 種目数、延べ受講者数	3種目 247人	3種目 230人
市民スポーツ教室 種目数、延べ受講者数	13種目 203人	14種目 286人
地区スポーツ教室 地区数、延べ受講者数	10地区 2,233人	10地区 1,858人
市主催水泳教室 講座数、延べ受講者数	6講座 1,215人	7講座 1,294人
冬季スポーツ振興助成事業 助成件数	5,099件	1,387件
海洋スポーツ普及振興事業 参加者数	36人	30人

(2) 体育団体等支援事業

糸魚川市スポーツ協会、ジュニア育成団体に補助金等による支援を行いました。
(競技種目別団体30団体、学校体育団体5団体)

【スポーツ協会加盟状況】

区分	平成30年度	令和元年度
加盟団体数	35団体	35団体
加盟者数	7,235人	6,927人
ジュニア補助団体数	60団体	44団体

(3) 有名選手招致事業

バレーボール教室 2日間 420人

(4) スポーツ施設整備事業

内容	事業費	説明
名引山テニスコート人工芝改修工事	20,342千円	人工芝張替 テニスコート2面分
市民総合体育館（サブ体育館）改修工事	18,722千円	屋上防水、外壁改修、塗装改修ほか

【体育施設利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
施設数	30施設	30施設
利用団体数	9,919団体	10,470団体
利用者人数	234,034人	208,226人

【学校施設利用状況】

区分	平成30年度	令和元年度
開放施設数	19施設	19施設
利用団体数	5,386団体	4,765団体
利用者人数	122,802人	93,714人

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) スポーツ推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ教室やスポーツ大会については、スポーツ協会加盟団体や地区公民館と連携して様々な種目で開催しており、前年同様の参加率や参加回数を維持しています。なお、台風の影響により駅伝競走大会を中止としました。 スキー場リフト乗車料金の助成については、小雪の影響で大幅に減少しました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に参加できる機会の提供を継続するとともに、市民ニーズの把握を含め、いつでも・どこでも・誰でもが気軽にスポーツに親しめる環境づくりについて調査・研究を進めます。 		
(2) 体育団体等支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加盟している会員数は減少傾向にあるものの、加盟団体数は維持しています。 全国大会等の上位大会出場件数は、高校生以下では前年比3割減少となりましたが、一般では倍増しました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 競技力向上やスポーツ指導者の養成とその資質向上を目指すため、上部団体やスポーツ協会及び加盟団体と今後も連携を図ります。 指導者を対象にした講習会の開催による指導者資質の向上や協会として取り組む事業の見直しが必要です。 		
(3) 有名選手招致事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> バレーボール元全日本代表選手から直接指導を受ける教室の実施を支援しました。今後も競技力の向上とスポーツの魅力を市民に伝える効果があげられるよう継続して事業を実施します。 		
(4) スポーツ施設整備事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、人工芝テニスコートの改修や市民総合体育館の屋上防水工事を行い、施設の長寿命化を図りました。今後も経年劣化した施設の機能保全のための維持管理は必要です。 利用希望が重複する施設は、曜日や時間帯の調整を行い、利用促進を図りました。今後も利用調整を行いながら有効活用を図ります。 学校施設の開放については、市立小中学校及び市内の高校と連携しながら有効利用に努めました。 		

第3 文化の振興

1 芸術文化の振興

- (1) 市民の芸術文化活動への支援
- (2) 優れた芸術文化の鑑賞機会の提供
- (3) 文化施設の有効活用

【基本方針】

市民の心の豊かさを育むため、芸術文化の振興を図ります。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
年間1人当たりの文化事業参加回数※1	0.5回	1回	1.5回
年間1人当たりの文化施設利用回数※2	1.7回	1.6回	2.1回

※1 美術展や文化ホール事業等、市が関連する文化事業の参加者数/人口

※2 糸魚川市民会館・青海総合文化会館・能生マリンホール利用者数/人口

2 施策の方向

(1) 市民の芸術文化活動への支援

- 市民の主体的な芸術文化活動が活発に行われています。引き続き、これらの活動を支援し、地域の活性化を図ります。
- 市民の文化活動の励みと郷土愛の醸成のため、学校や市民団体等と連携し、郷土にゆかりのある文化人を顕彰します。

(2) 優れた芸術文化の鑑賞機会の提供

- 心豊かな市民生活に、文化活動は不可欠です。そのために、音楽コンサートやミュージカル、演劇、美術展など優れた芸術文化に触れることのできる機会を提供します。
- 学校をはじめ、市民団体や地域等と連携しながら、若い世代が文化に親しむ機会を設けます。
- 鑑賞機会の提供には、集客型事業のほか、メディアの活用やアウトリーチの実施など、多様な方法に取り組みます。

(3) 文化施設の有効活用

- 糸魚川市民会館及び青海総合文化会館については、市民の文化活動の拠点として、引き続き多くの方から様々な文化活動に利用されるように努めます。
- 文化施設の多くは老朽化が進んでいるため、利便性や効率性を考慮しながら、公共施設等総合管理指針に基づき、あり方を検討するとともに、計画的な改修整備等を行います。

3 事業内容（主要事業）

(1) 文化活動支援事業

市民の自主的な鑑賞事業の実施を支援することにより、優れた舞台芸術を鑑賞する機会の充実を図りました。

【文化活動支援事業支援状況】

区分	平成30年度	令和元年度
支援件数	2件	2件
補助額	1,543千円	1,573千円
入場者数	1,080人	993人

(2) 美術展覧会事業

糸魚川市美術展覧会、青海美術展、能生作品展、糸魚川市児童生徒図工美術作品展を実施しました。また画廊きららでは常設展示を行いました。

【美術展覧会実施状況】

区分	平成30年度	令和元年度
入場者数	6,182人	3,475人
作品数	1,167点	1,121点

(3) 相馬御風顕彰事業

短歌大会と俳句大会を隔年で開催し、令和元年度は、新潟県で開催された国民文化祭の事業となり、著名な講師を招へいすることができたため、応募人数、応募作品数は、例年より大きく増加しました。

【短歌・俳句大会実施状況】

区分	平成30年度	令和元年度
応募人数	1,920人	2,304人
応募作品数	2,148首	3,582句

※平成30年度は短歌大会、令和元年度は俳句大会を実施。

(4) 文化協会支援事業

補助金による支援及び人的支援（事務局代行）を行いました。

【事業実施状況】

区分	平成30年度	令和元年度
会員数	126団体 2,957人	122団体 2,615人
事業数（総合）	6件	5件
事業数（部会）	6件	6件
参加者数	3,142人	1,596人

※令和元年度の文化協会フェスティバルは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(5) 鑑賞推進事業

優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供するとともに、市民参加型事業をはじめ、老若男女を問わず鑑賞可能なジャンルの公演事業充実を図りました。

【鑑賞推進事業実施状況】

区分	平成30年度	令和元年度
事業数	18回	19回
鑑賞者数	7,624人	10,711人

(6) 文化施設改修事業

施設の老朽化が進み、経年劣化による不具合が多くなっており、利用者の利便性を確保するため、優先度の高い施設の改修工事等を行いました。

【糸魚川市民会館施設改修事業】

内容	事業費	説明
舞台制御盤更新工事	6,497 千円	大ホール舞台制御盤の更新

【青海総合文化会館施設改修事業】

内容	事業費	説明
調光設備改修工事	11,880 千円	照明操作卓及び客席照明信号改造工事
空調自動制御盤交換工事	4,158 千円	リモートユニット交換
給水ポンプユニット更新工事	4,860 千円	給水ポンプユニット更新

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 文化活動支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間団体等が一流アーティスト等を自主的、主体的に招へいする事業を支援する事業ですが、近年は、実施団体が同一となる傾向があります。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業を活用する団体を増やすため、事業のPRを積極的に行います。 		
(2) 美術展覧会事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減や自己表現方法の多様化などにより、入場者数、出品数ともに減少傾向で出品者の固定化も課題となっています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、作品製作の裾野を広げるための活動を行います。 		
(3) 相馬御風顕彰事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相馬御風の業績周知において、顕彰事業の効果が小さいという課題がありますが、インターネットを用いた作品募集の開始や、児童・生徒の部における募集対象の拡大など、より広く周知を図っています。 応募人数、作品数ともに増加しています。 		

(4) 文化協会支援事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員の積極的な事業参画を促すことにより、事務局負担軽減の成果が安定してきています。事業はマンネリにならないよう努力しています。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業と事務の効率化を行い、引き続き助言等を行っていきます。 		
(5) 鑑賞推進事業	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するため、幅広いジャンルで、老若男女が楽しめる鑑賞事業を継続的に企画、実施しています。 ・ 価値観の多様化、複雑化、さらにはインターネットの普及により著名アーティストの音楽や映像が手軽に見聞きできるようになり、生の演奏機会に触れることが少なくなっています。そのことが、多少、チケット販売にも影響していると考えられます。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて来館者へのアンケートを実施しており、今後も継続することによって、来館者のニーズ把握に努め、可能な限りニーズに沿った芸術文化の公演実施に取り組みます。また、あわせて鑑賞事業に来館されない方々のニーズの掘り起こしも進めます。 		
(6) 文化施設改修事業	評 価	遅れている
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内4か所の文化ホールは、施設の老朽化、設備の経年劣化により、改修や修繕、更新が必要となっており、計画的な改修工事を実施すべく年次計画を立てて取り組んでいます。 ・ 近年、複数の修繕箇所が発生していますが、修繕には多額な費用を要することから、計画どおりに進んでいないのが現状です。 ・ 予防保全的な改修や修繕を実施することにより、施設の長寿命化を念頭に置いて計画するものの、財政計画との兼ね合いから計画どおりに進んでいない状況もあります。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐用年数を経過した施設の予防保全的な修繕、改修を行うことを念頭に置きつつ、財政計画を考慮しながら優先順位を決めて、対応を進めます。 		

2 歴史・文化の継承と活用

- (1) 博物館施設の充実と活動の推進
- (2) 文化財の保存と活用
- (3) 伝統文化の継承と活用
- (4) 文化財収蔵・公開施設の整備

【基本方針】

ふるさと糸魚川に誇りを持ち愛する心を育むため、文化財や伝統文化の保存と活用を図ります。

1 施策指標

指標	現状 (R1)	中間目標 (R1)	最終目標 (R5)
博物館・資料館入館者数※1	103,279人	122,000人	127,000人

※1 フォッサマグナミュージアム、長者ヶ原考古館、糸魚川歴史民俗資料館、能生歴史民俗資料館、相馬御風宅の入館者数

2 施策の方向

(1) 博物館施設の充実と活動の推進

- フォッサマグナミュージアムは、ジオパークの拠点施設として、糸魚川の貴重な自然資源や資料について研究、収蔵し、分かりやすく情報を発信します。
- フォッサマグナパークは、郷土の大地の成り立ちについて理解を深めるために欠かせない自然資源であり、地域の活性化も視野に入れて保存と整備を行います。

(2) 文化財の保存と活用

- 文化財の適正な保存管理を図るため、解説板及び標柱の整備や普及活動に努め、文化財に対する市民の理解を促します。
- 埋蔵文化財の適正な保存を図るため、調査成果を広く市民に公開し、埋蔵文化財に対する市民の理解を深めます。

(3) 伝統文化の継承と活用

- 伝統文化を次世代に継承するため、伝承活動や保存活動を支援します。

(4) 文化財収蔵・公開施設の整備

- 文化財を適正に保存、活用するため、展示等や管理運営方法を見直し、既存の施設を有効活用するとともに、施設整備を検討します。

3 事業内容（主要事業）

(1) 博物館活動推進事業

ア 展示活動

内容	会期・会場	説明
企画展 「フォッサマグナミュージアム25年の軌跡」	4月20日～ 6月30日 ふるさと展示室	平成6年のオープンから25年間の歩みを写真や資料で振り返る展示
企画展 「秘蔵映像で振り返る雨飾山・小蓮華山の今と昔」	8月10日～31日 ふるさと展示室	新潟大学地域映像アーカイブスの協力で、雨飾山と小蓮華山の過去の秘蔵映像を展示
特別展 「日本列島の歴史を変えた石展」	10月5日～ 12月1日 研修室	日本地質学会において、岩石や鉱物、化石の発見に基づく優れた新知見に贈られる小藤賞(1980～2012)を受賞した標本を展示し、小さな石の研究によって、日本列島の歴史が塗り替えられていった事例を紹介 後援：日本地質学会ほか

イ 教育普及研究活動

区分	平成30年度	令和元年度
ジオパーク野外講座	7回 95人	7回 78人
ジオパーク講座	6回 104人	5回 88人
記念講演会	3回 309人	1回 51人
おもしろみゅーじあむ	12回 951人	6回 111人
ジオパーク関係講座	16回 383人	11回 318人
学校教育との連携	54回 2,515人	63回 3,093人
公民館等への出前講座	66回 2,020人	48回 1,848人
調査研究活動（学会発表含む）	30回	47回

(2) フォッサマグナパーク整備事業

内容	事業費	説明
フォッサマグナパーク断層露頭安全施設整備工事	1,889 千円	遊歩道転落防止柵新設、移設 H30年度からの繰越 (全体事業費2,989,440円)
フォッサマグナパーク断層露頭レーザ計測業務委託	1,069 千円	断層露頭の風化浸食速度の把握

(3) 国指定文化財整備事業

内容	事業費	説明
名勝「おくのほそ道の風景地親しらず」保存整備事業	23,833 千円	サイン整備 新設2か所 遊歩道の歴史解説・誘導看板 転落防止柵整備 L=220.5m

(4) 埋蔵文化財発掘調査事業

試掘確認調査を6か所で行いました（中野口地内中野口城跡仮設林道建設、上覚地内県営農地環境整備事業あわら地区ほか）。

【試掘確認調査】

区分	平成30年度	令和元年度
遺跡・地点数	11か所	6か所
調査規模	346㎡	235㎡

(5) 埋蔵文化財保存・活用事業

長者ヶ原遺跡について、3回の指導委員会を開催し、出土遺物の整理、図版等の編集を行いました。

(6) 文化財保護事業

【文化財管理・調査・継承】

区分	平成30年度	令和元年度
表示物	4件	2件
調査・記録	1件	1件
助成事業	4件	3件

【ジオパーク歴史講座・市内遺跡発掘調査報告会】

区分	平成30年度	令和元年度
講座数	17講座	14講座
聴講者数	535人	485人

(7) 企画展等

【企画展・講演会】

区分	平成30年度	令和元年度
糸魚川歴史民俗資料館企画展	416人	479人
史跡相馬御風宅企画展	456人	403人
大火3年事業講演会	—	50人
文化講演会	104人	85人
春の文化講演会	85人	—

4 評価及び評価理由、課題解決に向けた取組

(1) 博物館活動推進事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展「日本列島の歴史を変えた石展」によって、今まで知られることの少なかった研究者自身の研究活動に焦点をあてることができ、さらに学芸員や大学、他機関との共同研究の成果をトピック的に展示しました。 研究活動などが持続的に行えるよう大学や他の研究機関との連携強化が求められています。令和3年度には、新潟大学との関係を強化し、研究や教育、展示活動を今以上に推進していくために、新潟大学理学部との連携協定を結ぶ予定です。 		
(2) フォッサマグナパーク整備事業	評 価	順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 断層露頭の展示リニューアルによって、入場者数が増えました。さらに、市内外の学校の利用が増え、断層と地震を学ぶことができる場所として知られてきました。 		

<ul style="list-style-type: none"> 脆弱な断層露頭の侵食を最小限に抑えること、また枕状溶岩の整備などの課題がありますが、フォッサマグナパーク保存活用計画策定委員会でこれらの課題を議論しています。また断層露頭の価値を高めてメンテナンス等を推し進めるため、国天然記念物指定の議論も行っており、来年度の申請を目指しています。 		
(3) 国指定文化財整備事業	評 価	順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none"> 概ね適切に管理し、保存・活用も含め着実に実施しています。 文化財の適切な保存、管理、活用を図るため、各文化財に対応した保存活用計画の策定を推進します。 		
(4) 埋蔵文化財発掘調査事業	評 価	順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none"> 開発に伴う法令行為については、円滑に事業を推進し、成果の公開・活用を行いました。 埋蔵文化財の適切な保存のため、開発行為等の情報収集と円滑で効果的な事業を継続して実施します。 		
(5) 埋蔵文化財保存・活用事業	評 価	順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none"> 長者ヶ原遺跡により総括調査報告書の作成は、膨大な遺物とする人員等の不足で作業完了が懸念されていましたが、スケジュールや役割分担の見直し等により、遺物整理については概ね完了しました。 引き続き、令和3年度刊行に向け、長者ヶ原遺跡発掘調査整理指導委員会の指導及びタイムスケジュールに基づき、報告書の編集作業を進めます。 		
(6) 文化財保護事業	評 価	おおむね順調
【評価理由】 <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の管理を適切に行いました。 文化財の周知・活用を目的とした講座等を開催してきましたが、さらに市民の理解を進める必要があります。 【課題解決に向けた取組】 <ul style="list-style-type: none"> 市内外への周知や活用について、適切な保存を基本としながらも、電子媒体等も活用し、より積極的な情報発信を図ります。 		

(7) 企画展等	評 価	おおむね順調
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに購入、寄贈された所蔵資料等を適切に公開しました。 <p>【課題解決に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵資料のさらなる公開を企画し、市民の文化財に触れる機会の拡大や文化財への理解を深めます。 		

評価事業一覧

第1章 0歳から18歳までの一貫した子育てと教育の推進

施策	主要事業	評価	頁
1 妊娠出産支援と親子の健康	(1) 妊娠アシスト事業	おおむね順調	9
	(2) 妊産婦医療費助成事業	順調	9
	(3) 乳幼児すこやか事業	順調	9
	(4) 親子の絆応援事業	おおむね順調	9
	(5) めだか園運営事業	遅れている	9
	(6) 早寝早起きおいしい朝ごはん事業	おおむね順調	10
	(7) 親子食育推進事業	おおむね順調	10
2 子育て支援の充実	(1) 特別保育事業	おおむね順調	14
	(2) 休日お助け保育事業	順調	14
	(3) 子ども医療費助成事業	おおむね順調	14
	(4) 病児・病後児保育事業	順調	15
	(5) 子育て支援センター運営事業	おおむね順調	15
	(6) ファミリーサポートセンター事業	おおむね順調	15
3 就学前教育の充実	(1) 子ども一貫教育推進事業	おおむね順調	18
	(2) マタニティスクール	おおむね順調	18
	(3) 親子の絆応援事業【再掲】	おおむね順調	18
4 質の高い学校教育の推進	(1) 子ども一貫教育推進事業【再掲】	おおむね順調	23
	(2) コミュニティ・スクール推進事業	おおむね順調	23
	(3) キャリア教育推進事業	おおむね順調	24
	(4) 高校を核とした地域人材育成事業	おおむね順調	24
	(5) 学力向上支援事業	おおむね順調	24
	(6) 教職員資質・指導力向上事業	順調	25
	(7) いじめ・不登校等対策支援事業	おおむね順調	25
	(8) ふるさと糸魚川学習支援事業	おおむね順調	25
	(9) 教育補助員等配置事業	おおむね順調	26
5 学校等教育環境の整備	(1) 学校改修事業	おおむね順調	29
	(2) 小学校プール改修事業 グラウンド改修事業	おおむね順調	30
	(3) 空調設備等改修事業	順調	30
	(4) 防犯パトロール事業	おおむね順調	31
	(5) 学校ICT環境推進事業	順調	31

第2章 生涯学習の充実

施策	主要事業	評価	頁
1 社会教育の充実	(1) 成人教育事業	おおむね順調	36
	(2) 青少年活動事業	おおむね順調	37
	(3) 成人式事業	順調	37
	(4) 家庭教育支援事業	おおむね順調	38
	(5) 図書館資料整備事業	おおむね順調	38
	(6) 絵本ふれあい事業	おおむね順調	39
	(7) 地区公民館・生涯学習施設整備事業	順調	39
2 スポーツ環境の充実	(1) スポーツ推進事業	おおむね順調	43
	(2) 体育団体等支援事業	おおむね順調	43
	(3) 有名選手招致事業	順調	43
	(4) スポーツ施設整備事業	順調	43

第3章 文化の振興

施策	主要事業	評価	頁
1 芸術文化の振興	(1) 文化活動支援事業	おおむね順調	47
	(2) 美術展覧会事業	おおむね順調	47
	(3) 相馬御風顕彰事業	順調	47
	(4) 文化協会支援事業	おおむね順調	48
	(5) 鑑賞推進事業	おおむね順調	48
	(6) 文化施設改修事業	遅れている	48
2 歴史・文化の継承と活用	(1) 博物館活動推進事業	順調	52
	(2) フォッサマグナパーク整備事業	順調	52
	(3) 国指定文化財整備事業	順調	53
	(4) 埋蔵文化財発掘調査事業	順調	53
	(5) 埋蔵文化財保存・活用事業	順調	53
	(6) 文化財保護事業	おおむね順調	53
	(7) 企画展等	おおむね順調	54